

1. インターバンク市場

先週のインターバンク市場は、中間期末を挟んだことでGCLレポートが0%近辺まで低下した影響を受け、無担保コールO/Nのレートが大きく変動する一週間となった。29日は先々週末までと同様に0.065%中心の出会いとなり、無担保コールO/N加重平均は0.067%となっていたが、月末を挟んだT/N(9/30-10/1)は0.02~0.03%で出会いが散見されていた。30日は地銀・信託・証券業態で0.02~0.03%、大手行は0.01~0.015%の調達で始まり、一巡後は0.01~0.02%の出会いとなり、無担保コールO/N加重平均は0.029%となった。10月に入ってから徐々にレートを戻しており、1日の無担保コールO/N加重平均は0.049%、2日は0.056%となった。週末となる3日は地銀・信託業態を中心に0.055~0.06%程度の出合いがみられる中、大手行は0.05%から取りあがる気配を見せず、落ち着いた展開となっていた。ターム物の出会いに関しては、週の前半は資金の出し手も限られており、証券業態のロールオーバーの案件が中心となっていた。10月に入ると、大手行の調達が幾分見られた。固定金利方式の共通担保資金供給オペは、2日に8,000億円・3Mでオファーされた。今年初の年末越えオファーとなり、3,300億円の応札と、期落ち分である2,670億円を上回ったものの、札割れの結果となった。

今週のインターバンク市場は、期末要因が徐々に剥落していること、レポ市場も徐々にレートを戻してきていることから、無担保コールO/Nは0.055~0.065%近辺を中心とした出会いになると予想される。6日に10Y発行があるため、資金需給上では大幅な不足日となるが、高水準の当座預金残高を背景に特段の要因とはならない見通し。主な経済イベントとしては、6・7日に日銀金融政策決定会合が、8・9日にMPCが開催予定となっている。また、6日からはFRBによる労働市場情勢指数(LMCI)が毎月公表されるようになる。

2. オープン市場

先週の短国市場は、週前半は受渡し日が中間期末を越えていたものの、様子見姿勢が強く、閑散としていた。10月に入ると、それまではマイナス圏でのオファー気配しかなかった既発債3Mも0.000%の気配となり、残存が短い銘柄では売り物が散見されるなど、中間期末越えの過熱感が一服した。そのような状況の中、2日に3M物の入札が実施された。WI取引では0.020%の出会いから始まり0.025~0.027%でまとまった出会いが見られたものの、入札結果は平均落札利回り0.0165%、最高落札利回り0.0202%と、事前予想よりも強めの決着となった。セカンダリーではショートカバーから▲0.030%の出会いも見られた。3日に35,000億円で実施された短国買入オペはオファー額が事前予想を上回ったことから、平均利回較差▲0.003%、按分利回較差▲0.009%と流れ気味の強い結果となった。週末の気配は、3M物が再びマイナス圏での推移になっており、様子見姿勢が強まっているため、特段の気配は見られていない。

先週のCP市場は、9月末の有利子負債圧縮の動きから、9月末のCP発行残高は14兆円程度となった。前月比▲1兆5,000億円程度の減少となったものの、証券・ノンバンク業態の発行の伸びが大きく、前年比では7,000億円程度の増加となった。10月に入ると、9月末に残高を縮小した鉄鋼・電機業態から大型発行が相次ぎ、週間償還総額3,500億円に対して、発行は8,000億円程度となった。CP発行レートは、週初は現先レートの低下や短国レートが下限域で推移していたため、小幅低下基調となった。10月にはいると、大型発行が膨らんだことで、発行残高の多い銘柄は上昇基調での推移となった。週末の気配は、a-1格の発行残高の多い銘柄では0.10%を超える水準が中心で、発行残高の少ない銘柄では0.08~0.09%の出会いとなっていた。

今週の短国市場は8日に6M物、9日に3M物、10日に2M物の入札が実施される。入札が連続することで、落札水準に変化が現れるかどうか注目される。CP市場は9日にCP等買入オペが予定されている。前回から1,500億円減額の4,000億円での実施となり、結果が注目される。

3. 資金需給および国債等

銀行券は週間で1,500億円程度の還収超見通し。財政資金は、6日のTB3M発行超過と10Y発行を中心に3兆4,400億円程度の揚げ超見通し。以上により、今週の資金需給(日銀調節を除く)は週間で3兆2,900億円程度の資金不足を予想する。国債・借入金(日銀償還は除く)の動きは次の通り。<6日>TB3M;償還40,800億円・発行57,000億円 / 10Y;発行24,000億円<10日>TB6M発行;償還30,700億円・発行35,000億円 / 10Y物価連動;発行5,000億円 / 個人向け10Y償還18,600億円 / 交付税特会借入;期日10,500億円・新規10,500億円

2014年	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ	期日	新規実行	オペ合計	実質過不足
10/6 (月)	1,500	△ 38,400	△ 36,900	全店共通 (国) CP買入	△ 2,700 △ 300	3,300	400	△ 36,500
10/7 (火)	2,000	0	2,000	ETF買入 国債買入 短国買入		100 5,300 35,000	40,300	42,300
10/8 (水)	0	1,000	1,000				0	1,000
10/9 (木)	△ 1,000	1,000	0				0	0
10/10 (金)	△ 1,000	2,000	1,000				0	1,000
週間合計	1,500	△ 34,400	△ 32,900		△ 3,000	43,700	40,700	7,800

(注) 上表の10/6は日銀予想、10/7以降は当社予想。

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/6 (月)	日銀政策委・金融政策決定会合 (1日目 14:00~)		FRB労働市場情勢指数
10/7 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合 (2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見 (15:30) 9月のマネタリーベースと日本銀行の取引 (日銀 8:50) 8月の景気動向指数速報 (内閣府 14:00)		8月の米消費者信用残高
10/8 (水)	8月の国際収支 (財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の景気ウォッチャー調査 (内閣府 14:00) 金融経済月報 (日銀 14:00)	TB6M 35,000億円 10/10発行	10Y物価連動 5,000億円 10/10発行 MPC (英中銀金融政策委員会, 1日目)
10/9 (木)	8月の機械受注統計 (内閣府 8:50) 8月の特定サービス産業動態統計速報 (経済産業省 13:30)	TB3M 57,000億円 10/14発行	エネルギー 対策借入 3,000億円 10/20借入 MPC (英中銀金融政策委員会, 2日目) 8月の米卸売売上高
10/10 (金)	金融政策決定会合議事要旨 (9月3,4日分 8:50) 8月の第3次産業活動指数 (経済産業省 8:50) 9月の消費動向調査 (月次 内閣府 14:00)	TB2M 25,000億円 10/15発行	流動性供給 3,000億円 10/15発行 9月の米財政収支

本資料の内容は、十分信頼し得る情報・データ等に基づいて作成しておりますが、内容の正確性については弊社がこれを保証するものではありません。掲載内容のタイトル・日時・地域等につきましては、お取引先様各位にて別途ご確認いただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。